

講義名	高齢者心理学		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	銅直 優子 / 蜂屋 真 / 関 和俊		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 1時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント / 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング / 2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	3年生	単位数	2 備考

主題と概要

この授業は、老化の現象を心身両面から理解することを目的としている。
 心理的側面では、高齢者の記憶や知能の機能について解説し、それらが損なわれる認知症について詳述する。また、高齢期に生じ易いうつ病について理解し、その対応について学習する。その他、老化によって、性格や心理状態などがどのように変化していくのかを理解し、高齢者に対してどのような心理的援助法があり、どのような効果があるのかについて学習する。加齢による記憶機能や知能の変化について理解を深めるとともに、認知症に対する理解とケアを学ぶ。体力や知的側面の衰えは心理面にも大きく影響を及ぼしている現象が高齢者の生きがいや死生観にどのような影響を及ぼしているのかを心理面から理解をしていくと同時に老年期における心理測定や心理療法についても学んでいく。
 身体的側面では、身体が年齢とともに変化していく事実を生理学的現象として把握し、身体の老化の過程が、外部からの働きかけによって影響されていくことを学習する。さらに、加齢に伴う身体の変化である老化を形態の変化と機能の変化から学習していく。

到達目標

高齢期の身体的変化について、理解することができるようになる。
 高齢期の記憶や知能の機能について、理解することができるようになる。
 高齢期の心理的側面の特徴について、理解することができるようになる。
 高齢期の人たちに対する運動実践指導や心理援助について、理解することができるようになる。

提出課題

3名の教員それぞれが何らかの課題（レポートなど）の提出を指示する。課題内容は、オンライン授業内や講義連絡等で指示するので、各自責任をもって定期的に確認すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

複数教員での担当のため、各教員が学生の要望に応じて対応する。

評価の基準

課題やレポート：100%

履修にあたっての注意・助言他

ひとつでも課題を提出しなかった場合は、合格が極めて難しいと思われるので、授業内や講義連絡等における指示や説明をしっかりと理解し、課題全てを提出すること
 担当教員によっては課題や授業方法も違ってくるため、授業内や講義連絡等での確認をしっかりと行うこと。

教科書

.無し.

プリント資料及び参考文献

【参考文献】
 ・よくわかる高齢者の心理 近藤勉著 ナカニシヤ出版
 ・高齢者の「こころ」 事典 井上勝也・大川二郎編中央法規
 ・高齢者のこころの理解とケアに役立つ「成熟と老化の心理学」 谷口幸一編著 コーレル社
 ・老いのこころ「加齢と成熟の発達心理学」 佐藤真一・高山緑・増本康平（著） 有斐閣
 ・健康運動の支援と実践 田中真次代編著 金芳堂

授業計画

- 1 高齢者心理学とは（担当：関、蜂屋、銅直）
- 2 日本社会と高齢化（担当：蜂屋）
- 3 高齢者の記憶（1）（担当：蜂屋）
- 4 高齢者の記憶（2）（担当：蜂屋）
- 5 高齢者の知能（担当：蜂屋）
- 6 高齢者の不適応心理 - 認知症 -（担当：蜂屋）
- 7 高齢者の不適応心理 - 恍惚の人（有吉佐和子）DVD鑑賞 -（担当：蜂屋）
- 8 高齢者の不適応心理 - うつ病 -（担当：銅直）
- 9 高齢者のアセスメント（担当：銅直）
- 10 性別に見られる加齢現象（担当：銅直）
- 11 高齢者の心理と自己概念（担当：銅直）
- 12 高齢者に対する心理的援助法（担当：銅直）
- 13 高齢者の心理の総括（担当：銅直）
- 14 老化に伴う体力低下とその予防（担当：関）
- 15 高齢者に望まれる体力レベル（担当：関）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【蜂屋担当分】
 予習：授業内容に関連する書籍を、前もって読んでおくこと（2時間）。
 復習：授業内容に関連する書籍を復習として活用し、疑問点はメールで教員に尋ねること（2時間）。
 【銅直担当分】
 参考文献などを用いて各回のテーマに関する領域を熟読し重要語句を書き出しておくこと（予習：2時間）、また、授業の配付資料とノートを見直して、要点をまとめること（復習：2時間）。
 【関担当分】
 予習：最近の高齢者の体力や疾病などについて調べておくこと、また自分の身近に住む高齢者の現状（健康面・体力面など）を把握しておくこと（2時間）。
 復習：講義資料の内容を読み返しておくこと（2時間）。また、レポート課題は講義資料を参考に書くこと。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

遠隔授業（「課題学修型」および「同時双方向型」）で行う。担当教員によって授業の方法が異なるため注意すること。スマートフォン、PC、タブレット等を準備しておくこと。教材はパワーポイントのビデオ、音声ファイル、PDF等でRyukaPortalにアップロードする。アプリとしてはskype for Business、Responを設定しておくこと。また学内アドレス、パスワードを確認しておくこと。教員によっては別のアプリを使用する場合もあるため、教員の指示、説明を十分理解すること。

実務経験の有無及び活用

備考